

## 第3回 公園活性化協議会 議事概要

開催日時 2022年1月13日(木) 14:00~15:30

開催場所 WEB 開催

出席者 渡邊会長 百武委員 小神田委員 中野委員 住吉委員 大前委員 井上委員  
平山委員 重光委員 宮本委員 山田委員 樋口委員

議事 「ひろしま公園活性化プラン」素案について

### 議事概要(まとめ)

プラン素案の構成については、基本的にこれで良い。一部に表現の工夫、考え方の工夫が必要であり、次の修正を検討して欲しい。なお、修正については事務局に一任する。

- ・ 本プランは「愛され続ける公園」,「活性化」に着目しているが、ベースとなるのは、経営という観点を考慮した新しい公園のあり方、マネジメントであるため、「経営的視点」「公園経営」等を盛り込んではどうか。
- ・ 未利用や低利用という考え方について、整理していただきたい。
- ・ あるべき姿(30年後)・目指す姿(10年後)の書きぶりを施策とも結びつくように整理してはどうか。
- ・ ターゲット層の設定について、かなり絞ったターゲット層にしているが、前提として多様な世代を対象としつつといったように考慮する必要があるのではないか。
- ・ 施策の展開について、費用対効果や時間などの観点からの優先順位づけも考える必要があるのではないか。

## (主な内容)

### ● プラン策定におけるベースとなる考え方について

- ・ 今回の議論は、「使われる公園」、「愛され続ける公園」、「活性化」に着目しているが、ベースになるのは、経営という観点を考慮した新しい公園のあり方、マネジメントである。
- ・ 「経営の観点」「経営的視点」「公園経営」等を盛り込んでどうか。

### ● あるべき姿と基本方針のつながりについて

- ・ あるべき姿の「自然と都市の近接性を実感できる」、「県民の健康・スポーツなどの夢や希望への「挑戦」を後押しする」について、どのように基本方針に反映されているのかが分かりにくい。
- ・ 県立3公園が県内では比較的大きな都市の近くに立地しているため、身近に自然を感じられるという意味で、自然と都市の近接性は、公園が持っている強み、前提条件としての位置づけになる。
- ・ あるべき姿(30年後)の文章について、『「自然と都市の近接性」を実感できる場』の前に「引き続き」という言葉を入れてもらえるといい。
- ・ 「引き続き」という言葉を入れるのであれば、「自然と都市の近接性」のかぎかっこはなくしてよい。

### ● ターゲット層について

- ・ あるべき姿へ「多様性」「挑戦を後押しする」と記載している一方で、現状の来訪者をターゲット層としていることが引っかけ。
- ・ ターゲット層については、若者など多様な世代をターゲットとしつつも、現状利用が多いファミリー層やシニア層を引き続き中心として取り組んでいくといったように整理してはどうか。

### ● 未利用地エリアについて

- ・ 未利用地があることが弱みとして挙げられている。未利用地エリアとは、どのようなエリアか。開発されていないエリアであれば、グリーンインフラなどの観点から守るべきエリアである可能性もある。
- 「みよし」においては利用率の低いエリアを指し、「びんご」においては施設がないために利用されていないエリアを、「せら」においては開発されていないエリアを指す。
- これらのエリアについては、今後、民間事業者の意向も踏まえ、すべてを開発して飲食に利用するというよりは、未利用地エリアも合わせた活用を検討するといったイメージをしている。
- ・ 未利用地については、整備してメンテナンスコストが高くなる場合もあるため、民間活用を軸にしていれば良い。
  - ・ 未利用や低利用という考え方については、整理していただきたい。

### ● 滞在時間の拡大について

- ・ 収益性を高める上で、公園の滞在時間を増やす必要があり、飲食やキッチンカー等の誘導といった施策をどの基本方針に位置づけるのかは検討の余地がある。
- ・ 滞在時間の延長は、上位に位置づける必要があるため、目指す姿（10年後）の共通点部分の一つ目に、「多様な人々から高い満足度を得て、誰でも何度でも訪れたい滞時間が長い施設となっている」などとしてはどうか。
- ・ 具体的に滞在時間を長くするために、キッチンカー等の誘導などを行うといった説明の方が納得できる。

### ● 地域住民の公園運営への参画について

- ・ 広島県は、全国的に見ても森林面積が非常に多く、県立3公園は森林に囲まれており、都市から来訪した人が自然に恵まれていると感じられる公園となっている。
- ・ 公園の周りに住んでいる地域の方々にボランティアとして何かやってもらうという考えではなく、公園で、森林を活用した取組を紹介してもらったり、空いているところで何ができるか検討したりというように、地域の方たちと共に作れるようなものがあつたら良い。地域の方々にも支えてもらって公園を作っていくという考え方がとても大事。
- ・ 目指す姿（10年後）に、「民間事業者や地域住民等が公園運営にも参画しており」というように、住民の方々を巻き込むというのを色濃く入れてはどうか。

### ● 施策の実施にあたって

- ・ すべてのことを全部できない、同時にできないため、効果の見込めるものや、時間がかかりそうなものはどのようなスケジュールで取り組むか、投資に対するリターンをどう上げていくかという考え方が重要。事務局の考え方で、重要度や効果、費用などを勘案し、どこから取り組んでいくかを定めてしっかり取り組まれない。
- ・ 実施することが目的化してしまわないように、PDCAを回していく必要がある。
- ・ 例えば、キッチンカーの導入のように、短期間で結果が出るものについてPDCAを回していくと、それが顧客を呼ぶことに短期的には繋がったのか、あるいは消費金額の増加に繋がったのか、体験時間に繋がったのかが見えてくる。それを他のエリアに全部展開しようとする中で、駄目だったら直せばいいぐらいでPDCAを回していき、より良いものにしていけばよい。3~4年間、アンケート調査を続けて、バリアフリー化に対するシニアの方の満足度などを確認しつつ実施していくことが大切。
- ・ 健康・福祉については、土木の仕事ではないと思うので、健康寿命の延伸やウェルビーイングなどは後押しする位置づけに立つなど、県の他部局と連携していくと良い。
- ・ プランは策定した後が一番大切なので、頑張りたい。
- ・ 投資対効果や、経営という考え方を導入することが一番重要な視点なのではないか。